



海と日本 PROJECT2022 事業  
日本全国ユニバーサルビーチ化プロジェクト  
アンケート結果 報告書

2023年2月

一般社団法人 日本体験教育研究所



## 日本全国ユニバーサルビーチ化プロジェクト アンケート結果報告

### ◇目的

本アンケート調査の目的は、須磨ユニバーサルビーチプロジェクト（以下、須磨UBPとする）の参加者の満足度及び参加前と後での気持ちの変化について明らかにすることであった。

### ◇方法

1. 調査対象者：須磨UBPに参加した障がい者または（本人の回答が困難な場合）ご家族計41名（参加前41名、参加後39名）
2. 調査時期：2022年7月～2022年12月
3. UBP参加者に協力を依頼し、Googleフォームを用いて調査を行った。
4. 調査項目：須磨UBPの満足度や現在の気持ち等について5件法で尋ねた。一部の質問に関しては、その理由を自由記述で尋ねた。

### ◇須磨UBPの満足度について

須磨UBPに参加後の満足度に関して、以下の質問により尋ねた。質問項目とその回答の分析結果を表1に示す。

表1 須磨UBPの満足度に関する質問

質問項目	平均値	標準偏差	n
①今回のような企画で誰もが海を楽しめる『ユニバーサルビーチ』は必要だと思いますか？	4.97	0.16	39
②今後もこのようなイベントやユニバーサルビーチの環境があれば良いと思いますか？	4.92	0.35	39
③イベント参加・ユニバーサルビーチを利用したの満足度を教えてください	4.95	0.22	39

①においては39名中38名、②においては39名中37名、③においては39名中37名が最高評価を選択しており、高い満足度及び今後のニーズがあることが窺えた。

①の質問に肯定的に回答した参加者39名に、その理由を自由記述で尋ねた。得られた回答の傾向を把握する目的で、文章中に出現する単語の出現回数（上位15語）を品詞ごとに整理したところ表2のようになった。

表2 ユニバーサルビーチが必要な理由に関する単語の出現頻度

名詞		動詞		形容詞	
単語	回数	単語	回数	単語	回数
障害 (障がい)	15	思う	12	楽しい	4
体験	14	出来る	9	いい	4
海	14	できる	9	難しい	3
家族	7	諦める	6	無い	2
車椅子	6	行く	6	多い	2
環境	5	もらう	5	すごい	2
場所	5	楽しめる	4	しづらい	1
経験	4	もつ	3	有難い	1
遊び	4	行ける	3	ものすごい	1
ハードル	3	入れる	3	ありがたい	1
児	3	持つ	3	少ない	1
チャレンジ	3	頂ける	2	大きい	1
思い出	3	遊ぶ	2	高い	1
一緒	3	増える	2	凄い	1
健全	2	楽しむ	2	強い	1

須磨 UBP 参加者は、日頃から「障害 (障がい)」があるために、様々な場面で「難しい」、  
「ハードル」が高いと「諦める」ことが多く、普段の「環境」では、また「家族」だけでは  
「海」に来ることは難しい。しかし須磨 UBP においては、スタッフやボランティアの方に  
支えられ、「家族」とともに「海」を「体験」でき、「楽しむ」こと、「チャレンジ」するこ  
とができる。「いい」「経験」が「思い出」になる。そのような点に、須磨 UBP の意義を見  
出す回答が多く見られた。

以下に、回答をいくつか抜粋する。

・私たち親子は、私も両腕に、娘も手と足に障害があります。子どもが、障害があるだけで  
もこういう体験をするというのはハードルが高いですが、親も子も障害があるとなるとよ  
り一層、体験するハードルが上がってしまいます。そんな中、今回のイベントを知り、スタ  
ッフ、ボランティアの皆さんと一緒に体験させられる、思い出を作れるというのは本当にい  
い経験でした。そして、いろんな障害者がいて障害児を子育てする家族の方たちも行く場  
所、遊ぶ場所、体験する場所に海という選択肢ができてそれが思い出の一つになると素敵だ

なと思いました。

・障害があってもみんなと同じように遊びたいのです。でもマットも更衣室もない海に遊びに行くのは本当に大変で困難です。なので、ユニバーサルビーチは夢のようでした。

・車椅子では海の近くも行けなくて諦めていたので色々な体験が出来る環境は増えて行ってもらいたいです。

・障がいがあってもいろんな事にチャレンジする事が大切、環境も大切。障がいがあるけど「やりたい」を叶える場があるのはとっても大切。

③の質問に肯定的に回答した参加者 39 名に、その理由を自由記述で尋ねた。得られた回答を似た内容ごとにカテゴリーに分類した結果、次のような結果が得られた。

#### ○楽しさ (16 件)

・子どもが笑顔で参加していたことと、家族で楽しめたからです。

・スタッフの皆様の温かい心遣いのお陰で、家族全員で楽しい時間を過ごさせて顶けました。など

#### ○非日常性 (10 件)

・はじめて娘に海水浴をさせてあげることができました。スタッフの皆さんが、本当に素敵な方達で嬉しかったです。

・普通ならできない体験ができたから。など

#### ○障害サポート (10 件)

・うちの子は危険が理解できないので、万が一の事があったらと思うと怖くて今まで海に連れて行く事ができませんでした。今回スタッフさんが付いてくれるという安心感があったからこそ初めて海水浴という体験をさせてあげることができました。

・海に連れていきたくても着替えをさせる場所もなく、砂浜を車椅子で押すこともできないので諦めていました。ビーチマットやそのまま入れるバギーの存在を知り、そして手伝っていただき弟も一緒に入ることができて嬉しかったです。

・入水までの移動、更衣、シャワーなどどれをとってもびっくりするくらい配慮がたくさんあって「また来たい！」って思えたから。など

#### ○活動それ自体 (5 件)

・海に入れて波乗りなどが出来た事

・海を敬遠していたけど、こんな歳になって入ってみて、全く違う感覚を覚えたから。など

#### ○その他

・海や環境に対する意識も深まりました。

・仲間が増えた。

・諦めなかったら必ず何かができる！と感じられたから。

◇須磨 UBП の魅力要素について

須磨 UBП のどの要素が高い満足度及びニーズに結びついているのかということに関して、以下のような質問を 1. 全く心に残らなかった～5. とても心に残った。の 5 件法で行った。

表 3 須磨 UBП における要素ごとの満足度

質問項目	平均値	標準偏差	n
今回参加したなかで、次のようなことはどの程度心に残りましたか。			
1.人との触れ合い	4.95	0.22	39
2.自然との触れ合い	4.87	0.33	39
3.アクティビティ自体	5.00	0.00	39

いずれの項目も非常に高い得点となっていた。項目間の比較では、「アクティビティ自体」「人との触れ合い」「自然との触れ合い」の順に平均値が高かったが、いずれの項目もほとんどの参加者（質問順に 37 名、34 名、39 名）が最高評価の 5 と回答していることから、優先順位があるというよりは、いずれの要素に関しても参加者が非常に魅力を感じているということが読み取れる。

次に、須磨 UBП の参加者の満足度及び参加前と後での気持ちの変化について、「普段のあなたの気持ちについて、当てはまるものを番号で教えてください。」という導入の後に「A: 自分に自信がある」「B: 充実感がある」「C: 今後、何かにチャレンジしたい」という 3 項目に関して、1: 全く当てはまらない～5: とても当てはまる、の 5 件法で質問した。

表 4 須磨 UBП 前後の気持ちの変化

	実施前		実施後		t 値
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
A. 自分に自信がある	3.21	0.79	3.82	0.96	4.54**
B. 充実感を感じる	3.59	1.01	4.33	0.80	5.11**
C. 今後、何かにチャレンジしたい	4.59	0.67	4.62	0.70	0.19

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$

いずれの質問項目も 39 名が須磨 UBП 実施前後に回答した。その結果、「A 自分に自信がある」の項目の平均点は 3.21 から 3.82 へ 0.61 上昇し、「B 充実感を感じる」の項目の平均点は 3.59 から 4.33 へ 0.74 上昇した。「C 今後、何かにチャレンジしたい」の項目の平均点

は 0.03 上昇した。これらの得点の上昇が統計的に有意なものかを明らかにするために、A～Cそれぞれの項目得点に関して、対応のある t 検定を実施したところ、A、B については実施の前後で得点が有意に上昇 ( $p < .01$ ) しており、C については前後で有意な差は見られなかった。つまり、須磨 UBP に参加することを通じて、自分への自信、及び充実感が向上していることが明らかになった。何かにチャレンジする意欲に関しては、須磨 UBP 参加者の多くが参加前から持っていたため、参加によってさらに上昇することはなかったが、得点としては僅かに上昇していることから、須磨 UBP 参加後も挑戦する意欲が維持され、その後の自己実現に向けて良好な心的状態が維持されていることが見てとれた。

「C:今後、何かにチャレンジしたい」の質問に、肯定的に回答した参加者に、どのようなことにチャレンジしたいかを尋ねた。得られた回答を似た内容ごとにカテゴリーに分類した結果、次のような結果が得られた。

○レジャーに関する内容 (36 件)

- ・川遊び、魚釣り、海に浸かりたい、カヌー (2 件)、水泳、SUP (3 件)、ラフティング、イルカと触れ合う、シュノーケリング、パラセーリング
- ・キャンプ (4 件)、山や滝で心洗われたい、木登り、ハイキング、トレッキング、登山 (2 件)、スキー、雪遊び
- ・スカイダイビング、空を飛びたい、ジップライン、パラグライダー
- ・色んな所へ出かけたい (2 件)、飛行機や新幹線に乗りたい、走ってみたい、自然と触れ合う体験、陶芸

○レジャー以外 (進路、職業、社会貢献等) に関する内容 (7 件)

- ・高校受験をしたい。
- ・将来起業したい。
- ・英検
- ・ボランティア活動
- ・農業にチャレンジしたい
- ・勉強を頑張って、大学に行きたい
- ・看護学生の前で特別講義をすることとなり、思いを伝えたい
- ・海中リハビリ

## ◇考察

まず、須磨 UBP の満足度に関しては、3つの質問を行ったが、5点満点で順に 4.97、4.92、4.95 という高い平均点が得られている。これは、いずれの項目においてもほぼ全員が満点の 5 点を選択した結果であり、須磨 UBP での体験に高い満足を得ており、今後もそのような場・環境が設けられることをほとんどの参加者が望んでいることを反映したものである。

次に、須磨 UBP のどのような要素がそのような高い満足度に結びついているのかということであるが、選択式のアンケートからは、参加者のほとんどが「人との触れ合い」「自然との触れ合い」「アクティビティ自体」の全てに魅力を感じていることが明らかになった。須磨 UBP においてはそれらが全て揃っていたことが、高い満足度につながったと考えられる。また、自由記述のアンケート結果からは、上述した 3つの観点以外に、とにかく「楽しい」と感じられること、普段はなかなかできない「非日常性」あふれる活動であること、「障害へのサポート」がしっかりなされていることにも魅力を見出していることが読み取れた。

そして、須磨 UBP の重要な目的の一つとして、参加した当事者や家族が経験を通して自信をつけること、またこの体験を元に他のことにもチャレンジしてみようと思えるようになることが挙げられる。その検証のために、参加前と後での気持ちの変化、具体的には、「自分への自信」「充実感」「何かにチャレンジする意欲」の変化について調査した。

分析の結果、「自分への自信」に関しては、統計的に有意に上昇しており、3.21 点から 3.82 点に上昇していた。「充実感」に関しても、同じく統計的に有意に上昇しており、3.59 点から 4.33 点に上昇していた。実際に得点が上昇した参加者数は、「自分への自信」では 18 名、「充実感」では 20 名にのぼる。これらのことから、須磨 UBP を通じて、「自信」や「充実感」が高まっていたと考えられる。自由記述の回答の中でも、参加者の多くが、日頃から障がいのために、様々な場面で難しい、ハードルが高いと感じ、諦めることがあることが示されており、そのような中であって普段はできないことを家族とともに体験できる須磨 UBP は、「やればできる」という参加者の自信を高め、また「できた」「楽しかった」という充実感を高めるものであると考えられる。

一方、得点だけで見れば、「何かにチャレンジする意欲」に関しては、4.59 から 4.62 にやや上昇したものの、統計的に有意な差とまでは言えなかった。これは、須磨 UBP に参加する直前の参加者にとっては、須磨 UBP に参加すること自体がチャレンジであり、すでにチャレンジする意欲が高い状態にあったため、参加後も大きな向上は見られず、高い意欲を維持する結果となったと考えられる。当然、須磨 UBP が参加者の意欲に見合った「楽しさ」や「やりがい」を提供できなければ、参加後に挑戦する意欲が低下してしまうということも起こり得る。そのような中で、参加した後に 5 点満点で 4.62 という高いチャレンジ意欲を

有していることは、須磨 UBP が参加者の「チャレンジする意欲」を刺激し、その後の様々な形での活動、社会参加につながっていく取り組みであることを示唆していると考えられる。実際に、自由記述の回答には、今後、様々なレジャーや、進路、職業、社会貢献活動等にチャレンジしたいという多岐に渡る活動への意欲が表れている。また、須磨 UBP に参加することを決めた者はすでに高いチャレンジ意欲を有していたことから、今後は須磨 UBP のような活動の実施内容、参加者の感想等をより積極的に障がいのある方々、高いチャレンジ意欲を現場では持っていない方々にアウトリーチしていくことが望まれる。それによって、従来は様々な困難により高いチャレンジ意欲を持っていなかった方々が、意欲を高め、よりよい自己実現を図るきっかけとなると考えられる。

以上